

Contents

Preface これから1年は外債投資の注目局面か? … 1

【Part 1】

なぜか止まらない「新興国通貨安」という異変 …… 8

1 “アベノミクス”で円安転換!
だったはずだが… …… 9

- * 「解散」「総選挙」で市場は何に反応したのか
- * “弱いドル”に振り回されてきた株式市場
- * 「脱デフレ」期待で強烈に売られた円
- * 株式市場と外為市場におきた「5月の異変」

2 あまりに悲しい
通貨選択型ファンドの現状 …… 19

- * 同じ通貨でも投資対象によって異なる痛み具合
- * 踏んだり蹴ったりの「ブラジル・リアルコース」
- * 分配金引き下げの理由はいったい何なのか

3 アメリカの金利が上昇すれば
高金利通貨は“用なし”か …… 26

- * 成長期待の投資資金はどこへ行った?
- * “2%の壁”を突破した米国10年債金利

4 新興国通貨建て外債
途中売却の損得勘定 …… 33

- * 金融引き締めで通貨維持を画策する新興国
- * 新興国通貨建て債券の途中売却はコストが重い
- * 利益が残る途中売却の分岐点はいくらか
- * 償還まで保有した場合の損益はどうなる?

5 想像以上に難しい
新興国通貨との付き合い方 …… 45

- * 償還まで持つもリスク、途中で売るもリスク
- * 「通貨は安い」「金利は高い」。これはチャンスか?
- * 新興国通貨に投資するファンドはここに注意

【Part 2】

金利上昇だがドルは安くない。
“だからこそ”米国債投資という発想 …… 54

1 米国国債はいま
“微妙”な局面にある …… 55

- * “出口”はいつ? 「3%」を意識する長期金利
- * 利回りと債券価格のトレンドを捉えてみる
- * 長期的推移が示唆する「絶好の買い時」

2 「出口の後」はどうなる?
予想されるシナリオを大点検 …… 62

- * 数年に1度のチャンスか? それとも…

- * 「米国経済絶好調！」が最悪のシナリオ
- * 景気失速なら早期に利益が取れる可能性アリ

3 いま注目できる投資対象は “超々長期”ゼロクーポン債 ……66

- * どのパターンにも対応可能な戦略とは
- * 超々長期債の値動きはかくもダイナミック
- * 値動きの大きさが為替リスクをカバーする
- * 金利上昇の最終段階で起きる“逆転現象”
- * 実はもっと超絶最悪シナリオがある？！

4 「弾」を5発以上用意して “好球必打”に徹する！ ……77

- * 果たして債券価格は安値圏か、高値圏か
- * 株の禁じ手“ナンピン買い”が有効策になる
- * 買い出動タイミングは10年債利回りで捉える

5 事前に意識しておきたい 「コスト」と「売り時」 ……82

- * 超々長期ゼロクーポン債の投資単価は3万円程度
- * 米国債もやはりコストは無視できない
- * 景気失速→金利低下局面での“分散売り”
- * 最高の売り時は「世界大不況時」という皮肉

Conclusion 改めて、資産を分散させる意味を考えてみる ……89

- * 株式で複数銘柄に「分散投資」。その効果とは
- * 外債で「日本の超低金利リスク」はカバー可能？

- * 新興国の通貨と株式も「同方向」のリスク
- * 「信頼性」は通貨の価値を左右する重大要素
- * デフレ不況と円高というリスクのヘッジ手段
- * こうすれば「強い円」の恩恵に授かれる！
- * 「絶好のチャンス」を捉えるためのリスク分散